

## 2020年度外国人児童生徒教育推進協議会報告

国際学部教授 田巻 松雄

本年度も外国人児童生徒教育推進協議会を2回（1回目：2020年9月14日、2回目：2021年1月21日）開催することが出来た。本会議は、栃木県教育委員会と県内9市1町（那須塩原・大田原・宇都宮・鹿沼・小山・栃木・真岡・佐野・足利市と壬生町）の教育委員会及び小中学校の代表校長に参加いただいている会議である。今年度で11年目を迎えた。全県的な視点で外国人児童生徒教育問題の現状や課題について情報・意見交換してきた。

### 1 回目：進路状況調査報告と進学ガイダンス

1 回目の会議では、まず、10 回目の外国人生徒の進路状況調査の結果について報告した。栃木県内のすべての公立中学校を対象に、外国人生徒（外国籍生徒と中学3年時に日本語指導が必要と判断されていた日本人生徒）の進路状況を把握するための調査である。

今回の調査では153人の生徒の進路状況が把握できた。高校進学者は135人で、回答者総数153人の88.2%を占めた。公立特別支援学校進学者が1人、専修（専門）学校進学者が3人いた。134人の進学先別割合は、公立全日制84人（54.9%）、私立全日制35人（22.9%）、公立定時制9人（5.9%）公立フレックス制6人（3.9%）、専修（専門）学校3人（2.0%）となっている。進学以外では、未定12人（7.8%）、帰国3人（2.0%）となっている。

今回の調査で日本での就学期間が3年以内と回答され、特別措置受験資格を有していたと理解される生徒は153人中20人（13.1%）であり、そのうちの13人が特別措置を使って受験した。有資格者20人のなかの13人（65.0%）が受験しているが、受験者が回答者全体に占める割合は8.5%で1割に満たない。

13人のうち、日本語指導「有」12人、「無」は1人である。A 選抜を受験した4人は全員公立全日制に合格した（日本語指導「有」3人、「無」1人）。B 措置を受験した5人のうち、3人は公立全日制に合格した。2人は特別措置受験では不合格となり、1人は公立高校フレックスを受験して合格し、1人は進学できなかった（進路は未定）。A 選抜とB 措置両方を受験した4人の進路は、公立高校定時制、私立高校全日制、日本語学校、未定と分かれた。日本語指導「有」40人のうち公立全日制進学者は17人であるが、そのうち7人（41.2%）が特別措置を利用して進学している。

次に、翌週に「多言語による高校進学ガイダンス」を控えていたこともあり、ガイダンスについて意見交換した。今回、コロナ禍の影響を踏まえ、2回のうち1回を初めてのオンライン開催に切り替えた。致し方ないという気持ちでの判断だったが、今後もオンライン開催の可能性のあることを想定し、主にその有効活用の在り方について意見交換した。なお、オンライン開催にしたことを受け、栃木県の高校入試や高校

進学に必要な情報を8言語で分かりやすく説明する動画を初めて作成した。

## 2回目：進学ガイダンス、学ボラ報告と現状・課題に関する意見交換

まず、冒頭、栃木県教育委員会より、外国人生徒向けの特別措置制度の条件緩和と入試問題文にひらがなのルビを振ることを検討している旨報告があった。昨年度2回目の協議会で栃木県教育委員会へのルビ振り要望案について集中的に議論した。一刻も早く導入されることを願っている。

県内の高校進学ガイダンス開催状況を共有するために、HANDS主催の2回のガイダンスと佐野市・栃木市・小山市開催ガイダンスについて関係者より報告があった。佐野市と栃木市は教育委員会、小山市は市民団体が主催している。HANDSは、栃木市・小山市ガイダンスにHANDSが作成したガイダンス説明資料を提供している。地域開催拡充のために、ガイダンス資料が有効活用されることを願っている。

今回、初めて2名の学生に参加してもらい、学ボラの体験を語ってもらった。大学院地域創生科学研究科2年の李美香と1年の莊敏霖である。2人とも中国人留学生で李美香は小学校3年の中国人児童、莊敏霖は中学校3年の中国人生徒を学習支援している。2人の話から、少しでも学校生活を楽しく過ごしてもらいたいという気持ちで献身的に活動を続けていることが強く伝わってきた。

意見交換では、昨年度や今年度希望する高校に進学できなかった生徒が何人かいたという現状が紹介され、高校進学の厳しさを改めて突き付けられた。この点に関して、外国人児童生徒教育拠点校（通称拠点校）に指定されている中学校が少ない、漢字の多い問題文の理解が難しいとの意見も出た。また、小学校入学前の就学時検診において親子ともども日本語能力の判定が必要との意見をはじめ、様々な課題が出された。

コロナ禍の影響で、年度当初計画したことのいくつかは実現できなかった。このような状況だからこそ、支援や交流はより必要なのではないかと。状況を見守りながら、様々な工夫をしていきたい。

---

---

# 「多言語による高校進学ガイダンス」 コロナ禍での多言語による進学ガイダンス

---

---

多文化公共圏センターコーディネーター

鄭安君

2020年度は新型コロナウイルス(以下、コロナ)の影響により、多言語による高校進学ガイダンスは通常の対面形式のガイダンスのほか、オンライン形式のガイダンスをも試みた。本報告書

は初挑戦となるオンライン多言語による高校進学ガイダンス開催の概況およびガイダンス全体を通して強く感じたことをまとめる。

### 2020年多言語による高校進学ガイダンス

	ガイダンス名称	開催団体等	日時・会場	参加家族	対応言語(通訳)
1	オンライン多言語による高校進学ガイダンス	宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター	9/21(月) オンライン開催 (ZOOM)	7家族	スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語(タガログ)、ベトナム語、中国語、タイ語
2	栃木県高等学校進学フェア2020(多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/22(火) マロニエプラザ (宇都宮会場)	18家族 (生徒19人)	スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語(タガログ)、ベトナム語、中国語、英語、やさしい日本語
3	令和2年多言語による進学・学校生活ガイダンス	栃木市教育委員会と共催	10/3(土) 栃木市役所	7家族	スペイン語、ネパール語、フィリピン語(タガログ、ビサヤ)